船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

平成 30 年 9 月発行

考える会ニュース

NO.1・2合併号

（事務局）
船橋市教育委員会　教育総務課企画係
〒273-8501　船橋市湊町 2-10-25
TEL: 047-436-2802　　FAX: 047-436-2808
MAIL: kyosomu@city.funabashi.lg.jp

【『考える会』とは？～開催までの経緯～】

教育委員会では、「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針(※)」に基づき、適正な学校規模による望ましい学校配置の実現に取り組んできました。

金杉台中学校は平成 21 年度に全学年 1 学級となったことから、選択できる地域を拡大しました。一部の学年で 2 学級となることもありましたが、平成 26 年度以降全学年 1 学級であり、今後の推計においてもその状況は続くと見込まれています。

また、生徒数が少ない学年もあることから、教育活動の充実のため、適正規模化に向けた計画的な対応策についての検討を開始することとしました。

まず、地域の方々、保護者の方々など学校関係者の皆様の認識を把握するため、金杉台中学校、金杉台小学校の学校評議員、PTA 役員からそれぞれ意見を伺いました。

これらの意見を踏まえ、子供たちにとって望ましい教育環境を整えることを第一に考え、地域・保護者の方々と丁寧に検討を進めていくこととなりました。

そこで、金杉台中学校の現状について広く学校関係者の方々と、課題について共通認識を図り、今後のあり方について検討を進めるため、『考える会』を開催し意見交換することとしました。

（※）「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」市ホームページアドレス
http://www.city.funabashi.lg.jp/kodomo/keikaku/002/p055056.html

【第 1 回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会の報告】

平成 30 年 2 月 9 日（金）　金杉台小学校にて開催

＜考える会の出席者＞

金杉台中学校及び金杉台小学校の学校関係者として、両校の校長、学校評議員と PTA 役員の代表、教育委員会事務局から管理部長、教育総務課長、学務課長が一堂に会し、意見交換を行いました。（計 12 人）

＜会議内容＞

（1）金杉台中学校の現状及び今後について

学校規模の適正化という観点から、このままの学級数・生徒数で維持していくのではなく、学区変更や統合などを検討する必要性について、事務局から説明しました。

表：金杉台中学校の現状の生徒数及び今後の推計

年度	1年		2年		3年		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
30	1	23	1	15	1	21	3	59
31	1	21	1	23	1	15	3	59
32	1	15	1	21	1	23	3	59
33	1	23	1	15	1	21	3	59
34	1	19	1	23	1	15	3	57
35	1	16	1	19	1	23	3	58
36	1	17	1	16	1	19	3	52

※平成30年度は5月1日時点の実数。他は各年度5月1日時点の推計値。

※会議の際は平成 29 年度作成の推計を使用しました

（2）意見交換等

それぞれの立場から、子供たちのことを考えた様々な意見が出されました。出された意見の一部をご紹介します。

金杉台中の現状に関して

- 小規模校の良さや少人数のメリットを感じて金杉台中に入る子もいる。
- 一部の部活動では人数が少ないため、他の学校との練習や合同チームで試合に出ることがある。

今後に関して　①学区

- 金杉台中の選択地域を拡大できないか。
- 選択地域をなくし、金杉台中の学区を固定してほしい。
- 周辺で宅地が増えているので、新しい世帯は金杉台中の学区とすれば生徒が増えるのではないか。
- 同じ金杉台小の児童で、中学校を選択できる地域と、できない地域があることに反対。

注！意見をいただいた段階であり、まだ何も決定していません

今後に関して　②小中一貫校

- 小中一貫校等で学校の魅力を高めたらどうか。

その他

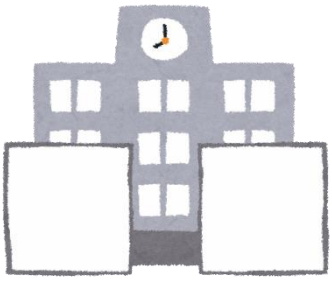
- 学校には教職員・児童生徒がいるので、いざというときに避難所として役に立つ。
- 統合となった場合、跡地をどうするのかについて、地域の実情に応じて検討してほしい。

今後に関して　③統合

- 市の基本方針をもとに考えていくと、統合という方向性は理解できる。
- 小規模校の良さを活かしながら存続させたいので、統合には反対。
- 中学校はなくなってほしくないが、学級数が多いほうが友達もたくさんでき、子供たちにとって良いのではないか。
- 金杉台中を希望する人もいるので、できることならば残してほしいが、予算などいろいろな理由で無理だというのであればやむを得ない。

上記のほか、今の金杉台中学校の小規模校としての良さを評価する意見とともに、学区変更や統合による適正規模化を検討する必要性に理解を示す意見もありました。義務教育制度（6・3 制）といった大きな枠組みについての意見もありました。

また、考える会としての検討事項の範囲など、考える会のあり方についての質問もあり、事務局において 1 回目の意見交換で挙がった質疑を整理し、2 回目の考える会を開きました。



【第 2 回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会の報告】

平成 30 年 7 月 12 日（木）　金杉台中学校にて開催

＜考える会の出席者＞

金杉台中学校及び金杉台小学校の学校関係者として、両校から校長、学校評議員と PTA 役員の代表、教育委員会事務局から管理部長、教育総務課長、学務課長（計 14 人）

＜会議内容＞

第 1 回考える会では様々な意見がありましたが、教育環境の充実という観点から整理すると、「現状維持」、「小中一貫校」、「学区の変更」、「統合」にまとまりました。2 回目以降、考える会では順次これらのテーマについて取り上げることとし、その中で、特に多く要望のあった「小中一貫教育」と「学区による対応策」についてテーマとし、事務局から具体的な検証内容を提示し、意見交換を行いました。

（1）小中一貫教育について

教育委員会では平成 17 年度に小中連携・一貫教育に関する研究をスタートし、平成 24 年度にその成果を研究報告書としてまとめています。その中では、「小中一貫教育校を設置するのではなく」、金杉台小・中学校のように「学区が複雑な地域では、連携教育を進めていく」こととしています。

また、金杉台中学校よりも建物がやや広い現在の金杉台小学校の校舎に、仮に、金杉台中学校の機能を移し一体化することができないか、事務局で検証しましたが、施設的にその機能を移しきれないことがわかりました。

～意見交換～

金杉台中学校の問題を小中連携・一貫教育のみで考えていくのは困難。人口が減少していくこれからの学校教育をどうしていくか一緒に考えるべき。

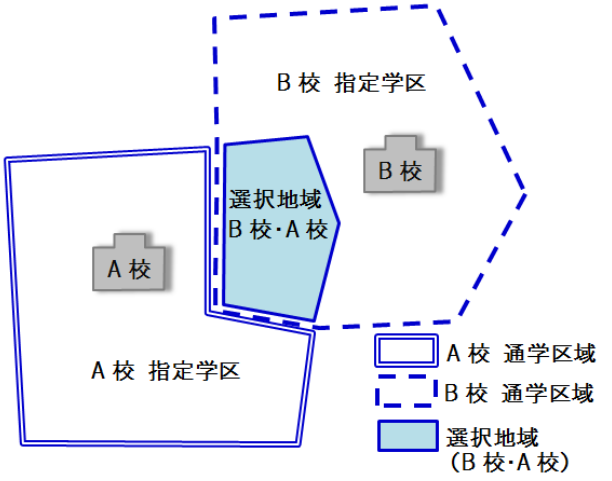
一小一中という定義に縛られず小中一貫教育を研究するなど、中学校をなくすのではなく、これまでの金杉台小との連携教育を大事にしてほしい。

（2）学区による対応策について

教育委員会では、あらかじめ各学校の通学区域を設定して、その通学区域に基づき就学すべき学校を指定していますが、一部の地域については、地域の実情等を考慮し、指定された学校以外の学校も選択できるようにしています。

金杉台中学校の学校規模を適正化するため、学区による対応策として、次の 4 つの通学区域変更案を推計しました。

学区のイメージ図
（通学区域･指定学区･選択地域）



学区による対応策

① 御滝中学校と金杉台中学校の選択地域の一部を金杉台中学校の指定学区にする変更案

② ①の変更案に、隣接する旭中学校の通学区域の一部を追加して、金杉台中学校の指定学区にする変更案

注！意見に基づき「試算」した段階であり、まだ何も決定していません

③ 御滝中学校の通学区域全体を御滝中学校と金杉台中学校の選択地域にする変更案

④ 金杉台小学校の指定学区全体を金杉台中学校の指定学区にする変更案

⇒①～④のいずれも、一時的には金杉台中学校の学級数が増えますが、推計可能なこの先 12 年以内に、全学年単学級に戻るような推計となりました。

～意見交換～

例えば二和西周辺(選択地域)では、一戸建てが新築され人口が増えている。学区を整理するなど、金杉台中学校への学区とし、中学校を残したい。

金杉台中と御滝中の周辺では、宅地造成が進み人口が増えるという実感が強い。この先 10 年程度は様子を見ていけばいいのではないか。

全て金杉台中・御滝中を選択できる地域とし、子供たちが行きたい学校を選んで行ければいい。子供たちが行きたいという学校の中身や、個々を大事にしてくれる先生の力量で、金杉台中に行きたいと思う人が増えるのではないか。

連携教育の魅力や、自然教育を特徴づけるなど、魅力ある学校づくりで、選択地域から金杉台中を選んでもらい生徒を増やせないか。

義務教育なので、生徒が偏ってしまうような自由な学区は難しいのでは。学区という枠の中で、魅力的な学校づくりをしていくべき。

今年度、金杉台中でバスケットボール同好会ができ、子供の意見を聞く学校側の姿勢に子供たちは期待している。学校側の動きが重要。

なお推計では、宅地化による転入の傾向を考慮していますが、選択地域に宅地が増えているため、金杉台中学校の推計にあまり影響が生じていないことを事務局から説明しました。上記の他、以下のような意見もありました。

これまでの 10 年でどんなことをしてきたのか。また、この先 10 年でどのようなことが出来るか、金杉台中を残す方向で考えたい。

金杉台中を残すための方法を提案しても、あまり効果が得られないと見込まれてしまい、なくす方向になってしまう。金杉台中を残そうとしてほしい。

第 3 回考える会では、2 回目に挙げられた意見等を整理し、金杉台中学校でのこれまでの取組、生徒数推計、統合などをテーマとして 8 月 28 日(火)に開催しました。その内容については、後日ニュース NO.3 を発行し、お知らせします。

◆ご意見、ご感想は表面の事務局までお寄せください。お待ちしています。◆